

# INFORMATION

No. 1602-03

## 新規受託のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、下記の項目につきまして、新規受託を開始させていただくことになりましたので、ご案内申し上げます。

敬具

### 記

#### ■検査要項

コード	検査項目名	採取容器	検体/検体量(保存)	検査方法	基準値	所要日数	実施料 [判断料区分]
3905	特異的IgE Gly m 4 (大豆由来)	A	0.3ml (冷蔵)	FEIA	0.34U <sub>A</sub> /ml以下	3日～ 5日	110点 [免疫学的]
3906	特異的IgE Hev b 6.02 (ラテックス由来)	A	0.3ml (冷蔵)	FEIA	0.34U <sub>A</sub> /ml以下	3日～ 5日	110点 [免疫学的]

#### 備考

特異的IgEで測定可能な項目には、主に粗抽出抗原が用いられており、その中にはその病態との関連性が必ずしも高くない成分も含まれています。アレルギーコンポーネント特異的IgE検査は、粗抽出抗原のうち特定の成分のみに対する特異的IgEを測定するものです。

(裏面をご参照下さい。)

#### ■受託開始期日

平成28年 3月 1日(火) より受託開始

株式会社 武蔵臨床検査所

\* お問い合わせは当社または担当者までお願いいたします。

〒358-0013 埼玉県入間市上藤沢309-8  
TEL 04-2964-2621 FAX 04-2964-6659  
URL <http://www.e-musashi.co.jp>

## ■ 特異的IgE:Gly m 4(大豆由来)

大豆は枝豆などそのままを食する以外に、豆腐や納豆、豆乳などをはじめとする様々な加工品があり、豆乳等を摂取した際に口腔内に搔痒感を覚えるなどアレルギー症状を訴える患者さんが増加傾向にあるといわれております。

近年、花粉関連食物アレルギー症候群 (pollen-associated food allergy syndrome; PFS) が増加傾向にあり、PFSは口腔アレルギー症候群 (oral allergy syndrome; OAS)の中で花粉症に合併することが多い食物アレルギーとされています。大豆のコンポーネントの一つである「Gly m 4」は、シラカンバやハンノキ等のカバノキ科花粉の主要抗原であるPR-10 (Bet v 1ホモログ)と高い相同性を持つとされており、PFSに関連するコンポーネントの一つと考えられています。

豆乳等の大豆加工品によるアレルギーが疑われる患者さんには、通常行われている粗抽出抗原による「大豆」では陽性になりにくい場合もあるため、「Gly m 4」を検査することにより陽性率の向上が期待され、PFSによる即時型アレルギーの診断に有用と考えられます。

## ■ 特異的IgE:Hev b 6.02(ラテックス由来)

ラテックスアレルギー (LA) は、ラテックス製手袋などを用いることが多い医療従事者で発症する例が多いとされています。従来、粗抽出抗原を用いた「ラテックス」では、陽性と判断された場合でも、実際にラテックス製品を使用して症状が出ない例もありました。

そのような症例において、粗抽出抗原を用いた「ラテックス」と「Hev b 6.02」の結果がいずれも陽性であれば、LAの可能性が高まります。従来「ラテックス」と臨床的特異度が高い「Hev b 6.02」を組み合わせることで、LA診断効率が向上できるものと考えられます。